

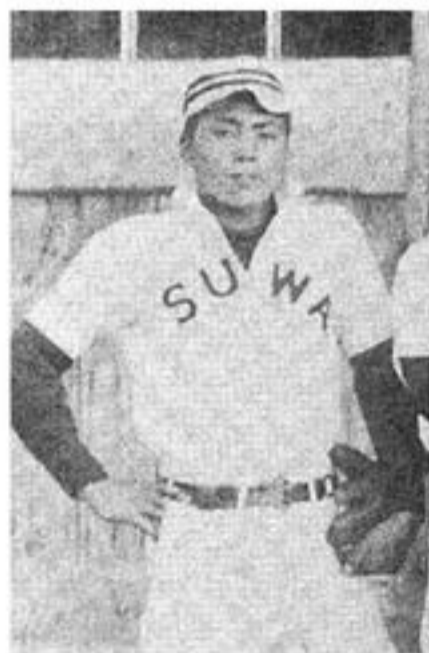
第100回全国高校野球選手権記念長野大会

復刻ユニホームで開会式行進

甲子園大会を前に、百年前のユニホームがお目見えすることになった。7月7日に開幕する第100回全国高校野球選手権記念長野大会（朝日新聞社、県高校野球連盟主催）の運営委員会が25日、松本市内であり、大会創設の頃に野球部が誕生していた現存10校の復刻ユニホームを開会式（松本市野球場）で披露する、と決めた。各校部員の計10人が100回記念の横断幕を手に入場行進する。

大会創設当時に野球部現存10校

県高野連の加盟87校で部史が最古なのは、1896（明治29）年創部の松本深志（旧松本中）。99年に長野（旧長野中）と諏訪清陵（旧諏訪中）が創部され、その後1900年の上田（旧上田中）と飯田（旧飯田中）、02年の大町岳陽（旧大町中）、03年の飯山（旧飯山中）、04年の野沢北（旧野沢中）、13（大正2）年の松商学園（旧松本商）と続く。第1回大会が開かれた15年に創部された岡谷工（旧諏訪蚕糸）を加え、対象は計10校。ユニホームのデザインが変わっている学校も多いが、各校に残る資料をもとに復刻版を作る。



①旧制松本中のユニホーム。校章のトンボを左胸に配した基本デザインは明治期の創部当時から現在まで同じ。トンボが抱え込む文字は、旧制中学時代は「中」で、1948年に松本深志高校になってからは「高」②「松本中学校・松本深志高校 野球部の一世紀」（松本深志高校野球部OB会刊）から③旧制長野中のユニホーム。甲子園球場ができる前、1921（大正10）年に鳴尾球場で開かれた第7回大会に初出場した当時から胸の文字は現在と同じ「NAGANO」。ただ、字体は微妙に異なる④「アルパム長野高校百年」（長野高校同窓会刊）から⑤旧制諏訪中のユニホーム。1899（明治32）年の創部当時は「SUWA」を胸に刻んでいた。その後、「SEIRYO」などを経て、現在は「諏訪清陵」⑥「写真でつづる清陵の百年」（諏訪清陵高校同窓会刊）から

横断幕（長さ5.5m、幅90cm）は「100th ありがとう これからも」と記され、全国の地方大会に続いて、8月5日に阪神甲子園球場である本大会の開会式にも登場する。

長野大会への参加は、昨年と同じ85チーム。部員不足の北部と坂城が連合チームで臨み、屋代南は不参加となる。Aシードは春の県大会で8強入りした佐久長聖、上田西、松本深志、松商学園、諏訪二葉、松本第一、伊那弥生ヶ丘、東海大諏訪。新設のBシードは県大会の1回戦で敗れた長野、長野西、長野東、更級農、上田千曲、小諸商、赤穂、松本国際の8校。

試合会場は松本市野球場、長野オリンピックスタジアム、県営上田、しんきん諏訪湖スタジアムの4球場で、決勝は7月22日の予定（松本市野球場）。抽選会は6月23日。昨年の長野大会で実現した全試合のインターネット中継は今年も実施する。（山田雄一）